

冬の光熱費

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

冬は暖房等で光熱費への支出が増える季節です。今月は冬の光熱費について家計調査結果からみてみましょう。

1～3月に増える光熱費

1世帯当たりの光熱費全体を月別^{注1)}（平成17～19年平均）にみると、1～3月の支出が多くなっています。内訳をみると、電気代及びガス代は1～3月、灯油は12～2月に多くなっています。また、いずれの月においても、光熱費の中では電気代が一番多くなっています（図1）。

注1) 電気代、ガス代は使用から支払まで間がありますが、家計調査では光熱費を実際に支払った月に家計簿へ記入するため、使用月ではなく支払月の結果となります。

増加する冬の電気使用

次に、冬^{注2)}の光熱費全体について、1世帯当たりの支出金額を価格の変動分を除き平成元年を100とした実質金額指数でみると、平成元年から8年頃までは増加傾向にありましたが、その後はほぼ横ばいで、平成元年に比べ2割程度高い水準で推移しています。また、内訳をみると、ガス代と灯油が最近10年で減少傾向にあるのに対し、電気代は増加傾向にあり、平成20年は平成元年に比べ6割程度増加しています（図2）。

注2) ここでは前年の12月から当年の3月までを指しています。なお、光熱費のうち電気代及びガス代は、注1)のとおり使用から支払まで間があるため、1月から4月の金額で計算しています。以下も同じです。

灯油への支出が多い北海道、東北、北陸地方

最後に、平成20年冬の1世帯当たりの光熱費全体を地方別にみると、東北地方が最も多く、次いで北海道、北陸地方が多くなっています。さらに、内訳についてみると、北海道、東北、北陸地方では灯油への支出が多いのが特徴で、特に北海道地方では、冬の光熱費の半分以上を灯油に支出しています（図3）。

図1 光熱費の月別支出金額（平成17～19年平均）

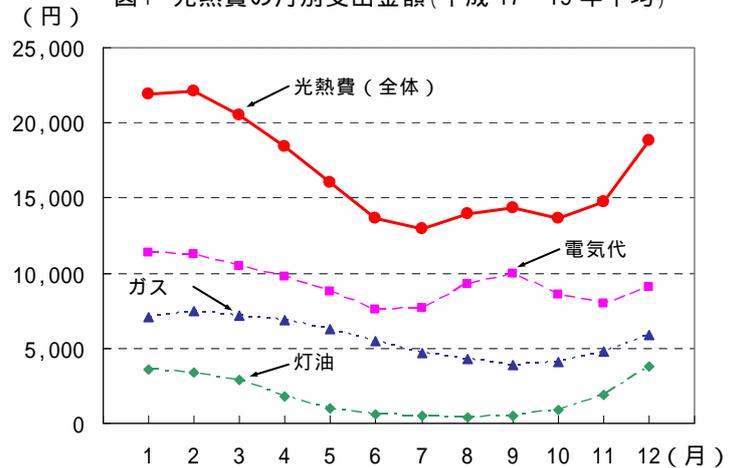


図2 冬の光熱費の実質金額指数の推移（平成元年=100）

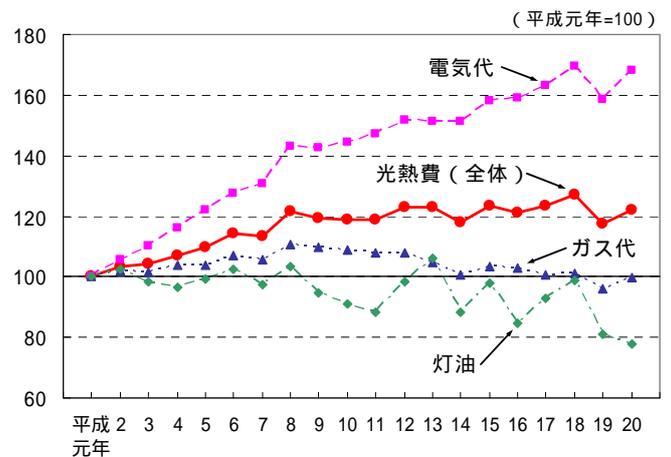


図3 冬の光熱費の地方別支出金額（平成20年）

